

令和5年度 事後評価  
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名： AI 駆動型の高精細クロマチン解析ツールの開発と個体への応用  
研究開発代表者名： 山中 総一郎（東京大学 大学院理学系研究科（理学部） 准教授）

本課題は、ゴノサイトを対象として、エンハンサー、プロモーター間相互作用の予測性を向上させた AI ツールの開発に成功し、カナダ側と協同で論文を発表するなど優れた成果をあげた。また、大学院生3名がカナダを訪問し、データ処理パイプラインの構築を行うなど、日本とカナダの若手研究者の交流が行われた点については、高く評価された。

一方、カナダ側のポスドクの雇用が遅れたことにより、カナダとの共同研究に遅延が生じた結果、エピゲノムデータの AI 解析への直接活用が不十分に終わった点は残念であった。今後も研究交流を継続することにより成果が実り多いものになることを期待する。総合的に、計画した成果をやや上回る成果が得られたと評価された。